

## 第1944回埼玉県教育委員会定例会

- 1 日 時 令和4年12月1日(木) 午前10時開会  
午前11時6分終了
- 2 場 所 埼玉県教育局教育委員会室
- 3 出席者 高田教育長、戸所教育長職務代理者、坂東委員、小林委員、首藤委員、櫻井委員、石井副教育長、古垣教育総務部長、石川県立学校部長、石井市町村支援部長、小谷野教育総務部副部長、小西生徒指導課長、渡辺義務教育指導課長、関根財務課長、阿部教職員課長、松本文化資源課長、田中県立学校人事課長  
案浦書記長、岩崎書記、原口書記、森田書記
- 4 会議の主宰者 高田教育長
- 5 会 議
- (1) 前回議事録の承認
- 全出席委員異議なく本件記載どおり承認
  - 高田教育長が、櫻井委員を議事録の署名者に指名した。
- (2) 報告事項
- ア 令和3年度埼玉県公立学校における児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査結果について  
小西生徒指導課長(提出理由、調査の趣旨、調査対象期間、調査項目、調査対象及び調査結果の概要について説明)
- 首藤委員 小学校の暴力行為は減少していますが、中学校の発生件数と比べて多いのではないかと感じました。小学校の暴力行為の具体的な内容について教えてください。また、小学校のいじめ・暴力・不登校に対応することが中学校の

問題行動の抑制につながり、将来的には、中途退学の抑制にもつながると思いますが、小学校の暴力行為の対処方法について教えてください。

小西生徒指導課長 小学校の暴力行為は、児童間の暴力行為が一番多い状況です。内容は、片方が一方的に暴力を行うという暴力性の強いものではなく、児童の間でコミュニケーションを取っている中で、相手を小突いてしまうことや発達の段階で特性のある児童がかんしゃくを起こし、叩いてしまうなどの事案が多い状況です。委員御指摘のとおり、小学校から中学校、高校生になる過程の中で、様々な考え方を持つ児童・生徒に対しどのように指導していくのか、非常に大事なことです。暴力行為を減らしていく、それを解決していくためには児童・生徒が起こした行為のみを見るのではなく、暴力行為が行われた背景まで踏み込んだ指導が重要だと各学校に指導している状況です。

首藤委員 小学生の対教師暴力行為の件数も無視できない数ですが、具体的内容について教えてください。

小西生徒指導課長 先生が暴れている児童を抑えるために対応しているときに、先生を叩いてしまったケースが多いです。

首藤委員 分かりました。引き続き、対応をお願いします。

戸所教育長職務代理者 日本の10代、20代、30代の死因の1位は、自殺であり、他の先進国と比較すると人口に対する割合で非常に多い状況です。11ページに「教職員一人一人がアンテナを高く張り、児童生徒のささいな変化を見逃さないことが重要である。」と記載されていますが、具体的な事例として、もしかしたら大変な状況になった可能性がある生徒に対応したことで助けることができた事例はあるのでしょうか。個人情報もあり、全てはオープンにできないかもしれませんが、校長先生の研修会などで伝える際に具体的な事例を話した方がよりイメージが湧くと思います。研修会などで具体的な事例を伝えたりしているのでしょうか。

小西生徒指導課長 委員お話のとおり、若者の死因の1位が自殺であり、各学校には児童・生徒が自ら命を絶つことは絶対にあってはならないと指導しています。常々伝えていることは、精神的に不安定な児童・生徒がいる、又は家庭環境

が厳しい児童・生徒がいる場合、担任や一部の教員だけが把握するのではなく、校長を含めた学校全体で把握・見守ることをお願いしています。実際に自殺を防いだかどうかは分かりませんが、様々な課題や困難を抱えている児童・生徒たちに対して、学校や教員がしっかりと幅広く目を配ることは、各学校で行われています。校長会や生徒指導主任の研修の際には、組織的な対応をし、児童・生徒の支援につなげてほしいと伝えています。

戸所教育長職務代理者 具体的に校長会でどのような話をしているのでしょうか。実例などを挙げて話をしているのでしょうか。

小西生徒指導課長 長期休業中明けに自殺が多いと言われていますが、9月の初頭に臨時の校長会を開催しました。その中でコロナ感染症の影響により、今までは生徒間の接触を極力避けるようにしていましたが、通常の日常に戻りつつある中で、生徒間の接触が増えることにより、楽しく行事等をやれる生徒もいれば、みんなで何かをやるのがつらい、関係性を持つことが苦手な生徒にとっては、負担を感じることもあります。そのため、児童・生徒の一人一人をしっかりと見守ってほしいということを校長会で具体的な事例を挙げながら伝えています。

戸所教育長職務代理者 具体的に言えない部分があるかもしれませんが、大きな問題であると思いますので今後ともよろしくお願いします。

櫻井委員 いじめの認知件数の把握の方法は、アンケートをしているのか、それとも学校から報告があったものをカウントしているのか、どのようにしているのか教えてください。また、説明の中でいじめが増えた要因の一つに先生方が初期段階からきめ細かく対応しているため、認知件数が増えたとのことですが、今まで暗数などの隠れていた件数があったとの理解でよろしいでしょうか。

小西生徒指導課長 いじめの認知の方法ですが、学校で認知した場合、設置者に報告する義務があります。市町村の場合、各学校で把握したものは市町村教育委員会に報告することとなり、その積み重ねが全体の件数となります。さらに、アンケート、教師が生徒の様子を見て分かったこと、親の訴えなどでも把握をしています。暗数などの隠れていた事例があったのかとの御指摘ですが、過去

にはあったのかもしれませんが、現在はしっかりといじめを把握しようとした中で、全体の件数が計上されています。引き続き、いじめ防止対策推進法に基づく認知と適切な初期対応に努めてまいります。

櫻井委員 中学校、高等学校は、いじめの増加率が少なく、実質の数字自体も低くなってきており、その成果が表れているという理解でいいのでしょうか。

小西生徒指導課長 中学校、高等学校についても、いじめ防止対策推進法に基づくいじめの認知についてはしっかりと指導しています。全国でも小学校から中学校、高等学校に上がるにつれ、いじめの件数は、減っていく傾向にあります。各学校には、いじめを認知し忘れている、漏れていることがないように、危機感を持って児童・生徒に対応するよう指導しています。

坂東委員 自殺の低年齢化は、非常に気になる場所であり、全国の小学校の自殺の件数8件のうち2件が埼玉県というのは、非常に多いのではないかと感じました。精神構造が未熟な段階の小学生が自殺といった行動をすることは非常に問題だと思います。そのため、校長先生の研修会などで専門家の意見を聞くことができるなど、今後対策に力を入れてほしいと思います。

小西生徒指導課長 事務局としても小学校の二人の自殺については重く受けています。現在、中学校と高校を中心に、東京大学大学院と連携しながら、メンタルヘルスリテラシーの向上に取り組んでいます。研究成果については、小学校にも周知を行い、今後絶対にあってはならないとの考えの下、進めていきたいと思えます。

高田教育長 様々な御意見を頂きありがとうございました。いじめの認知件数が増えた背景は、これまでは、からかわれた、ぶたれたなどそういったものはいじめに当たらないと判断してきたものが、現在は、いじめとして判断して認知し、組織的な対応をしていくことについて、理解が深まった側面があると思えます。今後は、いじめを減らしていくこと、さらにいじめが発生したとしても重大事態に至らないように取り組むことが大事だと考えています。また、自殺については、小・中・高等学校の段階で、自ら命を絶ってしまったことを考えると本当に痛ましいと思えます。まずは、子供たちに生きていることに価値があ

ることを理解してもらうことが何よりも重要だと考えています。簡単にはできませんが、自己肯定感を高め、お互いに褒め合う、認め合うことを学校の中で地道に行っていくことが大事だと思います。また高校生の段階では、メンタルヘルスに不調をきたす場合もあります。学校は、専門家の医療につなげることを考えますが、保護者の御理解が得られない場合も少なからずあります。以前に比べれば、クリニックに通院することのハードルは下がっていますが、そういったことも含め、東京大学大学院と連携している取組を進めていきたいと考えています。子供たちが学校生活を楽しく過ごし、学校卒業後も豊かで充実した人生を送れる生徒に育てるためにはどうすればよいか、引き続き考えながら取組を進めてまいります。

#### イ 自立心をはぐくみ絆を深める道德教育推進事業について

渡辺義務教育指導課長（提出理由、道德の教科化、「特別の教科道德」に求められていること、事業の概要、事業の内容、成果と今後の方向性について説明）

首藤委員 三芳中学校の道德教育を視察しましたが、ICTを活用した授業を興味深く見ることができました。今まで引っ込み思案の生徒は、手を挙げて発言することがなかなかできませんでしたが、ICTを活用することで自分の意見をまとめ発表したり、他の生徒の意見と比べたりするなどICTを有効活用していると感じました。正に、「考え、議論する道德」の一部になっていると思いました。7ページの道德授業「匠の技」は、以前から行っている事業ですが、かつての道德教育は、生徒の感情に訴える、心情を重視する、指導でした。現在の「考え、議論する道德」になり、「匠の技」がどのように活用できるのか、教えてください。

渡辺義務教育指導課長 委員お話のとおり、昔ながらの授業だけでは、必ずしも教科化された道德で求められている「考え、議論する」ことは達成できるものではありません。そのため、両者の良さを合わせることにより、より良いものが生まれると思います。「匠の技」における見識の高い講師は、生徒への声掛けや、生徒の声、意見を拾うことに長けていますので、そういった技術と合わせ

ながら、新しい学習指導要領に求められている道徳の良さを引き出していきたいと考えています。

小林委員 私も三芳中学校の道徳の授業と講師の講演等を聞かせていただきました。コロナ感染症の影響により、生徒が話し合う機会が奪われている中で、久しぶりに生徒たちが先生や仲間と生き生きと議論している姿を見て、非常にうれしかったです。学校は、道徳の教育のように多様な価値観や意見に触れる場であって、こういった時間が大事だと改めて感じました。あえて正解を出さない、考えていろいろな正解がある唯一の教科であると私は考えており、義務教育の9年間で触れることで、その後の人生に非常に生きていくのだなと改めて感じました。そのため、道徳の時間に生徒が様々な考えに触れて経験してもらうことが非常に大切で、コロナ感染症の影響により、学校になかなか行けない生徒がいる中で、学校はこういった経験ができる貴重な場だと思いますので、積極的に進めていくことが必要だと思います。モデル校になると各先生方も力を入れて行いますが、横展開をスピーディーにやってほしいと思います。義務教育の9年間で、触れている生徒と触れていない生徒で差が出てしまうのは非常にもったいないと思います。今回報告したことを速やかに横展開し、埼玉の義務教育を受けている生徒が、きちんとその後につながる経験が得られるように積極的に進めてほしいと思いました。

渡辺義務教育指導課長 コロナ禍において、道徳の重要度が増していると思います。委員お話のとおり、モデル校の取組の横展開をスピーディーにすることは非常に大切であり、先日の三芳中学校の授業には、近隣の学校の先生も視察をしていました。今後もモデル校の取組や良い取組をスピーディーに広げるように努めてまいります。

戸所教育長職務代理者 私が小学生のときとは環境や考え方が違うと思いますが、小学生の低学年のときは、先生は特別な存在であり、先生のような人になりたいというケースが多くありました。私の場合、中学生のときの数学の先生を尊敬し、憧れていました。小学生にとって先生の存在は非常に大きな存在であり、児童に見られていることを認識し、人間らしい先生になってほしいと思います。

ので、そのことを今回の事業の中でも伝えてほしいと思います。失敗もすれば、時には忘れることもある、しかし児童に対しては熱血で一生懸命である先生は、非常に大事だと思います。小学校の先生が集まるときは、児童に対して一番影響力があるとのことを伝えてもらえればと思います。

(3) 次回委員会の開催予定について

12月23日（金）午前10時

<非公開会議結果>

第83号議案 県議会令和4年12月定例会提出予定案件について

県議会令和4年12月定例会提出予定案件の原案を決定しました。

第84号議案 県議会令和4年12月定例会提出予定案件について

県議会令和4年12月定例会提出予定案件の原案を決定しました。

第85号議案 公文書不開示決定処分に係る審査請求事案の裁決について

公文書不開示決定処分に係る審査請求事案についての裁決を決定しました。

第86号議案 教職員の懲戒処分について

非違行為を行った県東部地区の県立高等学校の男性教諭（40歳）に対して、免職する懲戒処分等を決定しました。